様式1 平成 25年度　山梨県立中央高等学校・定時制　評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

	規範意識の育成を図ると共に、社会の中で自立する生徒を育てる。

山梨県立中央高等学校校長　小林欣一

本年度の重点目標	1　学校生活全般を通じての規範意識の育成
	2　キャリア教育推進事業の実施による就労意識の育成
	3　コミュニケーション能力の育成

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（2月7日現在）			実施日　（平成26年2月25日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	日常の学校生活全般を通じての規範意識が育成される 自他を敬愛する心の育成を目指す、しなやかな心の育成ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを推進する	具体的な行動規範の明示	アンケートの実施	・生徒のアンケート結果から、「学校は安全・安心な環境と思える」の設問に約8割の生徒が大いにそう思う・ほぼそう思うがと答えており、前年が6割だったのが大幅に伸びた。年間を通しての職員の巡回指導の成果と思う。 ・職員のアンケート結果から、「問題行動に対し、対応できる組織づくりがなされている」の設問に約9割の職員が大いにそう思う・ほぼそう思うがと答えており、昨年に引き続き、非常に高い評価であった。	B	・巡回指導、校門指導、職員間の連携により、本年度は問題行動で指導された生徒が4名(H24年度：7名・H23年度：26名)と前年度より激減した。授業については「授業中の心得」を教室に掲示すると共に生徒へ徹底し、授業を大切にする姿勢を育てることができた。その結果、授業の無断欠席者が減少し生徒が落ち着いて授業に取り組むようになった。 ・年次、教育相談と連携し、基本的な生活習慣や集団でのマナーやルールに重点をおいて指導して行きたい。	4	・問題行動で指導された生徒数がH23年度:26名・H24年度7名・本年度：4名と、大幅に減少している。次の取り組みの成果である。 ① 年度当初に、生徒指導上の確認事項について、職員全員で意思統一を図ることができた。 ② 授業中の決まり事について、全校集会、年次集会、HR等を通じて生徒に周知徹底した。 ③ 年次・教育相談・係と連携を取り、生徒の実態把握に努め個々の生徒に応じて柔軟に指導した。 ④ 年間を通して、全職員により授業開始時の巡回指導を当番制で実施した。 ⑤ 年間を通して、年次主任・係職員等による登下校時の校門指導（挨拶・声かけ）を実施した。 ・次年度においても、落ち着いた学校生活を維持するため登下校指導及び校内巡回を継続して欲しい。
		全職員による行動規範の遵守指導	アンケートの実施					
		規範意識の向上を目指した啓発活動の工夫	アンケート調査・観察					
2	キャリア教育推進事業を通じて、インターンシップに積極的に取り組むとともに、体験活動等により望ましい勤労観や就労意識が育成される	より多くの生徒をインターンシップに参加させる事前指導の充実	参加生徒数 就業達成率	・参加者が6名と少なかったが、計画通りに指導を進めることができ、意義深いインターンシップを終えることができた。 ・生徒のアンケート結果から、「働くことの楽しさ」「自ら進んで行動することの大切さ」「協力することの大切さ」をはじめ、多くのことを学ぶことができたとの感想があり、全員が「参加して良かった」という回答をしていることからも、就業体験を通して働くことの喜びと厳しさ、更に職業人としての心構えを学べたことと思う。 ・インターンシップに先立ちマナー講座を実施したが、生徒からは現場で役立ち、学んでおいて良かったとの声が多く聞かれた。	B	・受入先アンケートの結果から、本校のインターンシップならびに生徒の取り組み姿勢について全ての事業所から「良かった」との回答をいただいた。来年度の受け入れに対しても、「積極的に受け入れる予定」の回答をいただけ、参加した生徒がしっかりと取り組んだものと思われる。 ・生徒に対して、早い段階からインターンシップの意義や内容について理解させ、参加を促していきたい。	3	・前年度末の仮調査の段階では、14名の生徒が希望していたが、5月のオリエンテーション後の本調査の段階では6名に減少した。前年度の参加者数13名と比べても減少した。原因は大きく分けると2つあるようだ。 ①インターンシップ受け入れ企業の中に、生徒が希望とする職種・企業がない。 ②ほとんどの生徒がアルバイトをしているため、アルバイト先と同じような職種であれば、わざわざアルバイトを休んでまで参加する必要がないというものである。 ・実際参加した生徒の感想では、全員が「参加して良かった」であることから、次年度に向けての課題として、より一層生徒の希望する職種・企業開発が求められる。
		社会人として必要とされるマナーの習得	アンケート調査					
		体験活動等を通じての勤労観や就労意識の向上	アンケート調査					
3	対人関係の在り方やより良いコミュニケーションの方法について、学ぶことができ能力が育成される	総合的な学習の時間の計画的運営	計画的実施状況	・総合的な学習の時間の後期の講座の1つとしてSST講座を開設し、計画運営に努めた。今年度新設された午前部も含め、全ての年次、部で計画通りに実施できた。 ・SST実施前後に、社会性に関するアセスメントのテストを実施し、参加生徒の課題や到達状況を確認した。　・SST実施後の活動報告によって、参加した生徒たちが、コミュニケーションスキルの有効性を理解し、日常生活に生かしていることが確認できた。	B	・SSTを実施する教員が今年度は増えた。今後もソーシャルスキル教育を行える教員を育成していくことが課題となる。 ・入学から卒業まで3、4年間で計画的体系的にSSTを実施しコミュニケーション能力を育むことが必要である。	4	・一昨年度始めたSSTは、社会性や対人関係を練習する場として、対人関係が苦手の生徒や発達障害を抱えた生徒がいる本校では必要な学習方法の一つである。昨年度は就職・進学年次である3、4年次生に実施した。 ・さらに、1、2年次生からもSSTのニーズがあり、総合的な学習の時間の後期の講座の1つとしてSST講座を開設し、計画運営に努めた。今年度新設された午前部も含め、全ての年次、部で計画通りに実施できた。 ・次年度に向けては、入学から卒業まで3、4年間で計画的体系的な実施形態の計画化および指導できる教職員の育成が求められる。
		SST実施による生徒の自己課題の明確化	課題のアセスメント					
		SST実施によるコミュニケーション能力の向上	アンケート調査・観察					